

牧師室から (2022.7.24)

祈祷会での創世記の学びが今年7月で終わる。コロナ禍の中で中断されることもあったが、ほぼ2年かけての学びであった。暑い日も寒い日も雨や嵐のときも参加し、共に祈りを合わせてくださった海老名教会の祈祷会の方々に感謝である。

この頃の創世記の最後の部分はヤコブとヨセフの臨終の話である。

ヤコブは死んだと思っていた息子ヨセフに再会し、エジプトの地で飢饉の中でも衣食住に困ることなく、満ち足りるほどの豊かな生活を送ることができた。しかし、そのような生活の中でも、神様が示してくださった約束の地があることを忘れてはいない。安住することなく徹底的に旅人としての自分の信仰的なアイデンティティーを失っていない。波乱万丈な人生の歩みの中で与えられた神様の約束の確かさを、身をもって知り、それを息子たちにしっかり伝えようとする。目がかすみ、体は弱っているが、神様の約束への信頼に満ちている彼の最後の姿は、輝いているかのようである。

神様の祝福に固執して、兄を騙し、父にまで嘘をついたヤコブ、しかし今は、もはやそのような奪い取る者ではない。様々な試練を通して、見えるものへの執着はなくなり、神さまへの真実な信仰だけが衰弱な体の彼を奮い立たせている。主の御導きによって聖なる者に変えられている。

いつかは必ず訪れる死の前で、私はどのような姿であるのだろうか。主の憐れみと恵みによって、信仰者としての香りを放ち、ヤコブのように美しい姿でありたいと願っている。

(鈴木善姫牧師)